

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校是「未来拓創」と校訓「自主・創造・敬愛」を規範とし、自由で伸びやかな校風のもと、豊かな人間性と社会性を伸長し、知・徳・体の調和のとれた個性あふれる有為な人材を育成する。
(2) 現状と課題	本校の農業科では農業教育や索教育を基盤とする専門教育の他、農業クラブ活動や部活動等に積極的に取り組むことができる恵まれた教育環境のなかで、チャレンジ精神旺盛でたくましい生徒が活動している。設置されて3年目となる普通科も、学校行事には農業科の生徒と合同で運営・参加するなどにより融合を図り、また恵まれた教育資源を活かすことで、特色ある教育を実施することができる環境にある。 今年度は、特に普通科の学校設定科目の指導内容や指導方法等の充実が課題である。また、生徒及び教職員が安心して学校生活を送ることができる環境を整えるための体制づくりに、農業科のみならず全校をあげて取り組む必要がある。
(3) 重点目標	1. 学力の向上と自己教育力の育成を図る。 2. 個に応じた生徒指導の充実と保健・安全教育の実践に努める。 3. キャリア教育の実践と進路目標の実現に努める。 4. 魅力ある専門教育の充実と開かれた学校づくりの実践に努める。
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載し、保護者や学校関係者に公表するとともに広く一般にも公表する。

学校整理番号	31
学 校 名	青森県立三本木農業恵拓高等学校
全日制の課程	校舎
自己評価実施日	令和 6年 1月12日(金)
学校関係者評価実施日	令和 6年 1月31日(水)
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
構成：保護者代表1名、学識経験者（農業機関）1名、同窓会代表1名、学識経験者（高校教育）1名、地域農業経営者1名、地域住民1名の計6名。 学校評議員会の場で評価していただいている。	

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	
1	授業の充実と基礎学力の向上	(1) 校内外の研修に積極的に参加することで教員の指導力の向上を図る。 (2) 授業アンケートを実施し、課題を発見し授業改善を図る。 (3) 朝読書の時間を設定し、授業に向かう気持ちを整えることで、授業中の集中力を高め、基礎学力の向上を図る。	(1) 校内研修については、研究開発部が中心となって企画し、校外研修についても案内を行い参加を促した。特に安全管理研修を年5回実施し、教職員の安全に対する意識を向上させることができた。 (2) 年に2回授業アンケートを実施し、5点満点中4.2～4.9という好評価であった。また、アンケートをICTを活用して実施することで、教員の負担軽減につながった。 (3) 毎朝10分間の朝読書の時間を設定し、落ち着いた雰囲気の中で授業を開始できるようにした。この時間の一部を使い、国語科が中心となって、全校生徒対象の国語基礎力テスト(年間6回)を実施した。	B	学校評議員による学校評価では、「学科の特徴を生かした教育がなされている」、「わかりやすい授業がなされている」について、共に、「大変そう思う」が67%、「そう思う」が33%の評価をいただいた。 次年度も朝読書の時間を設定し、「授業への気持ちのON、OFF」の切り替えの習慣を身につけさせる。基礎学力の向上のため、国語基礎力テストを引き続き実施する。ICTの効果的な活用について研修を計画するとともに、生徒の実情に対応した学習指導の工夫や指導体制を整備する。

2	基本的生活習慣の確立と生徒理解の充実	(1)年間を通して服装容儀指導を実施し、規律ある生活習慣を身につけさせる。 (2)登校指導や個人面談のほか、日ごろの生徒の変化を観察することで、生徒の生活状況を把握する。 (3)スクールカウンセラー等と連携し、生徒の教育相談の充実を図る。	(1)学期ごとに服装容儀指導を実施したほか、「正しい制服の着用推進月間」を設定し、全教員で規律ある生活習慣を涵養することができた。 (2)毎朝生徒指導部を中心に全教員が当番制で登校指導を実施するとともに、面談週間を設定した。生徒の様子を観察し、細かな変化に気づくことができた。 (3)スクールカウンセラーに（年間12回）来校していただき、悩みを抱えた生徒や教職員とカウンセリングを実施した。スクールカウンセラーや特別支援教育の巡回相談員の的確なアドバイスにより、生徒、教職員とも貴重なサポートを受けることができた。	B	学校評議員からは、小中学校のときに学校から家庭で「しつけ」をしてほしいと言われたが、高校では部活動等の指導を通して基本的生活習慣を身に付けさせることができているというご意見をいただいた。	教員によって指導する内容に差が生じないよう、全教員が共通理解をもって、生徒に対して粘り強く指導する。 多様な生徒に対応するため、関係機関との連携を強化しながら、きめ細かい指導を継続する。
3	開かれた農場運営とプロジェクト学習の充実	(1)見学や農場体験学習を積極的に受け入れ、地域に貢献する。 (2)教職員が新技術に対応する研鑽を心がけ、プロジェクト学習指導の充実を図る。	(1)ほぼコロナ前と同様の規模で、苗の販売、アンテナショップの開店、農場見学、農場体験学習などを行った。体験学習で案内指導するナビゲーターの生徒たちは、社会性やコミュニケーション能力が高まっている。 (2)県外の学校訪問・施設見学をはじめ各種研修会に参加し、最新の知識技術の研鑽を深めた。	A	学校評議員からは、プロジェクト発表会について、素晴らしい情報発信の機会であるとの評価をいただき一方、部活動や農業クラブ活動について中学生に伝わる機会がもっとあればよいのではないかとのご意見をいただいた。	今年度は中学生対象の部活動見学会を試験的に実施したが、次年度は計画的に実施するほか、校内プロジェクト発表会などこれまで実施してきたものも含めて、生徒の学習活動を見ていただく機会について広く呼び掛けていくことを検討する。 教員の校内外の研修や視察については、今年度に引き続き、計画的に積極的な参加を促したい。
4	キャリア教育の推進	(1)各学科のインターンシップや職場や施設の見学及び関係機関と連携した研修会等を実施する。 (2)進学希望者対象の研修会、講習会を実施する。 (3)進路だよりを作成し、生徒や保護者に進路情報を提供する。	(1)1年生は、職場や施設の見学、2年生は、インターンシップ、3年生は、職場訪問を、計画的に実施することができた。 (2)県の「進学力を高める高校支援事業」を活用し、小論文講座、志望理由書研修会を実施した。 (3)進路だよりを発行し、進路に対する意識付けを行った。また、学科ごとの進路合格体験発表会を実施したほか、学年の保護者会でも情報提供を行った。	B	学校評議員による学校評価では、「生徒の進路達成を助ける取り組みが充実している」の項目で、「大変そう思う」「ややそう思う」を合わせて100%と肯定的な評価を得ているが、公務員（総合土木）等の進路も視野に入れた指導をしてほしいとの要望があった。	農業科については、これまでの農業高校としての特長をいかした、生徒の社会的・職業的自立に向けた教育活動を、今後も継続し実践していきたい。 普通科については、引き続き校内体制を整備するとともに、地域の企業・大学等と連携しながら、進路指導体制を構築する。
(11) 総括		今年度三本木農業恵拓高校として初めての卒業生を送り出したが、3年間の系統的な指導体制を構築することができ、進路達成状況を見ても一定の成果を上げることができた。本校の特色ある教育について、学校関係者評価では有意義なご提言とともに概ね好意的な評価をいただいた。 次年度も、教育活動のさらなる改善と充実に努めていきたい。				